

算数 授業づくり講座

in 香南市立野市東小学校

授業をアップデート!
生きて働く学びを創る!

令和6年1月発行
東部教育事務所

東部管内の講座情報

本事業は、学習指導要領が目指す授業づくりを推し進めるとともに、日常的に授業研究に取り組む風土づくりを行い、自ら学び続け、共に高め合う教員を育成することを目指します。
算数科では◇数学的活動の充実◇数学的な見方・考え方を働かせる授業づくりについて提案しています。本紙では香南市立野市東小学校の【授業研究会（11月22日実施）】における学びの様子をお知らせします。

各校で取り組んでほしい、実社会との関わりを意識した数学的活動の充実 ～Aの局面とDの局面の工夫～

授業の提案

第4学年「がい数の使い方と表し方」 場面に着目して目的に応じて数进行处理する

問題解決の必要性を感じるさせるためのAの局面の工夫

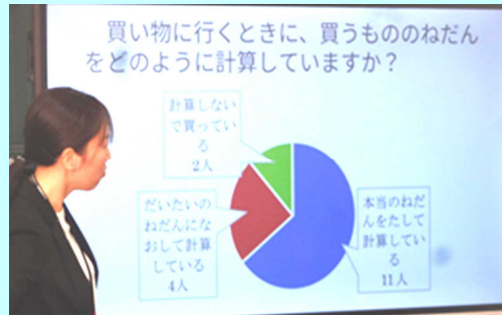
本時では、児童のこれまでの学習経験や生活経験とを関連付けて問題解決の必要性をもたせるようにした。

工夫1 他教科との連携(社会科と算数科)

社会科見学に行った際、1000円で高知の特産物を買う経験をさせる。

工夫2 日常生活との関連

事前に実施した「買い物に関するアンケート」の結果を見ることで、問題解決の必然性をもたせる。

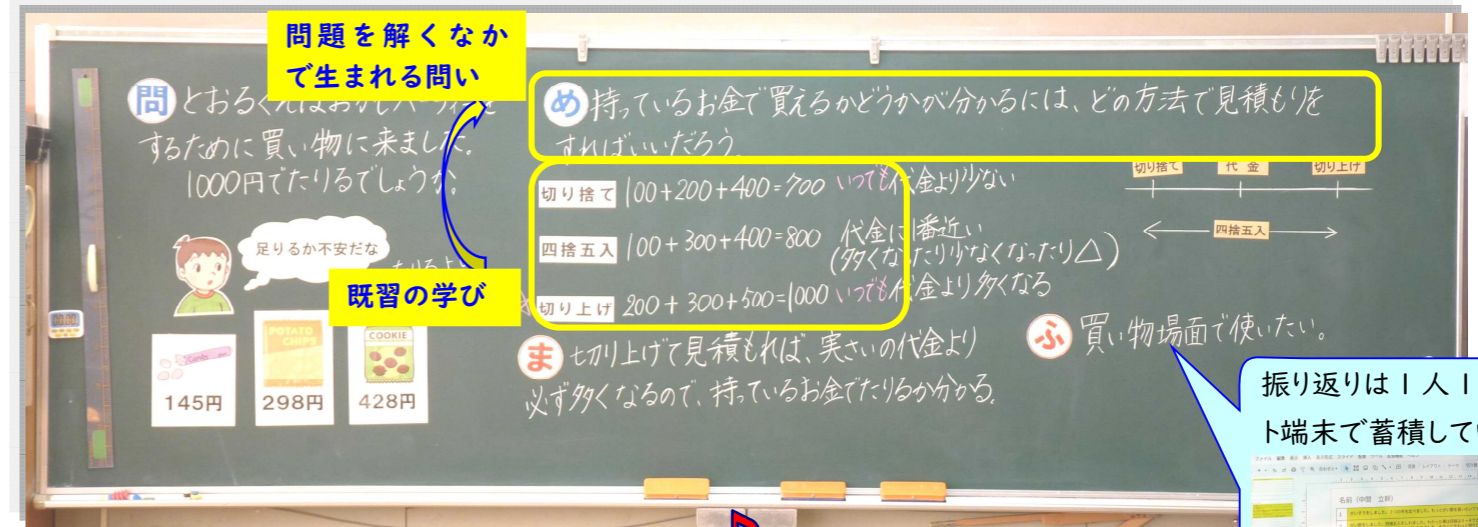


(授業記録)

T: この前、みんなで買い物に行ったときのこと覚えていますか?
C: 1000円を持って、「とさのさと」で買い物したね。
T: Aさん、あのとき、困ってなかった?
A: 特産物を5個買ったかったけれど、1000円を超えてしまって、1個あきらめたよ。
T: アンケートでも、Aさんのようなことがあった人がいるね。
T: 実はとおくんも困っているみたい。どうすれば、足りるか足りなかが分かるかな。

C: 概数にして見積りをすればいいよ。

日常生活を算数の舞台に乗せる(数学化)



問題を解くなかで生まれる問い

既習の学び

問題を主体的な問いにするためのBの局面の工夫

既習の学び(四捨五入、切り上げ、切り捨て)を目的に応じて使えるように、発問を工夫した。

(授業記録)

T: 買う物の値段や個数が変わっても、3つのどの方法でも使えるということだね。
C: 3つのどの方法を使ってもいいのかな?
C: どの方法でもはだめな気がするな。
T: 今日のめあては?

振り返りは1人1台タブレット端末で蓄積していました。

ICTの活用

Point

活用・意味づけするDの局面の充実

学習指導要領解説 算数編 P.26 参照

「統合的に考察する」

異なる複数の事柄をある観点から捉え、それらに共通点を見いだして一つのものとして捉え直すことであり、算数の学習で大切にすべきものである。

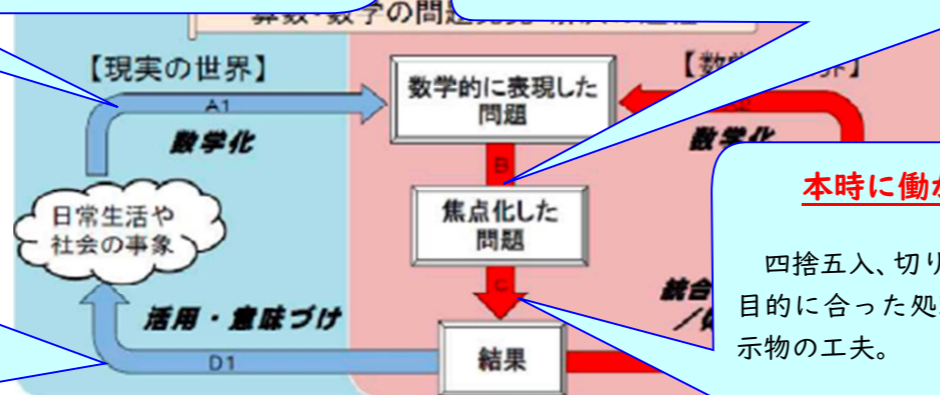
「発展的に考察する」

物事を固定的なもの、確定的なものと考えず、絶えず考察の範囲を広げていくことで新しい知識や理解を得ようとすることである。

(授業例)

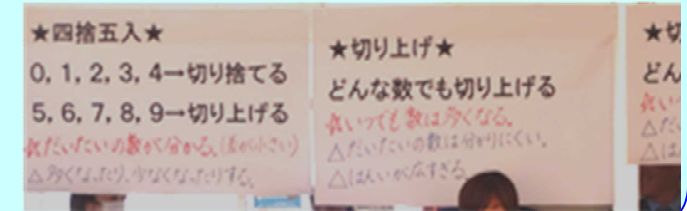
T: 買い物のときは、いつでも今日のように「十の位を切り上げ」するといいだね。
C: いつでも使えるのかな?
C: 例えば、1000円より多く買いたいときは、この方法ではいけない気がするな。
C: 「とさのさと」では、一の位で概数にしても、暗算できたよ。その方が本当の代金に近付くと思うよ。
C: だいたい代金が知りたいときや、必ず1000円を超えたいときなど、場面が変わると、今日の方法は使えないかも?

「はてまで終わる授業」を目指しましょう!



本時に働かせる見方・考え方を生かせるようなCの局面の工夫

四捨五入、切り上げ、切り捨てのよさをもとに、目的に合った処理の仕方を考えられるような掲示物の工夫。



参加者・授業者のアクション

参加者からの声～今日の学び～



自分の日常生活と結びつけた場面設定にすることで、児童が主体的に学習に取り組むことができるということを実感した。児童の考えが違う方向に進んだ時にどのようにゴールに導けば良いか、教師は様々な手立てを準備しておく必要があると感じた。



授業者 宮地 佐和 教諭

★生活に合わせた問題場面の設定

教科書通りに進めるのではなく、学習指導要領をもとに児童の生活場面に合わせた課題を設定し、授業を行ってきました。児童は毎時間、目的意識をもって授業に取り組むことで、学習意欲が高まり、話し合い活動も積極的に行うことができるようになりました。

★単元を通した視覚支援

「全員が分かる授業」を目指すために、単元を通して数直線を活用してきました。言葉だけでは分かりにくい児童も、視覚的な支援があることで理解が深まりました。

★振り返りの蓄積

毎時間の振り返りは1人1台タブレット端末を使って入力し、児童自身が学んだことをメタ認知できるようにしました。教師も児童一人一人の学びを系統的に見ることができ、その後の指導に役立てることができました。